福島県立医科大学 学術機関リポジトリ

FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY

Title	Factors associated with enrollment and adherence of outpatient cardiac rehabilitation in Japan(内容・審査結果要旨)
Author(s)	遠藤, 教子
Citation	
Issue Date	2015-03-24
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/619
Rights	
DOI	
Text Version	none

This document is downloaded at: 2020-01-06T12:26:01Z

Fukushima Medical University

資料４－３

論　文　内　容　要　旨

氏名（しめい）	えんどうのりこ 遠　藤　教　子
学位論文題名	Factors associated with enrollment and adherence of outpatient cardiac rehabilitation in Japan

心臓リハビリテーション（以下心リハ）は、運動耐容能、生活の質（Quality of Life）、そして、生命予後の改善といった効果が示されている。我が国では、心疾患患者への心リハ実施率は諸外国に比較して低い。実施施設においても、参加率並びに継続率は低いことが報告されている。本研究の目的は、外来通院型心リハにおける参加関連要因と、継続関連要因を明らかにすることである。

方法：本研究は症例対照研究で、対象者は一市中病院において、2010 年 3 月から 2 年間に入院し、心リハを施行された 544 人である。外来型心リハに参加した患者は 78 人（参加群）であり、その内 3 ヶ月外来型心リハを継続できたのは 23 人（継続群）であった。対照群は、外来型心リハ非参加者から無作為に抽出した 179 人である。調査項目は患者基本属性、心疾患の詳細、冠危険因子、内服加療内容、心機能関連項目、リハビリ関連項目等であり、電子カルテ、心臓カテーテルデータベースから転記した。

分析 1 では、心リハ参加関連要因について解析した。参加群と非参加群を単変量解析にて比較し、有意項目に基本属性を加えて多変量解析を実施した。分析 2 では、心リハ継続関連要因について解析した。継続群と非継続群の特性を単変量解析にて比較し、有意項目に基本属性を加えて多変量解析を実施した。

結果：分析 1 では高齢（オッズ比［以下 OR］, 0.96; 95%信頼区間［以下 CI］, 0.93–0.98; p=0.003）、病院までの距離（OR, 0.97; 95% CI, 0.95–0.99; p=0.014）が有意な参加関連要因であった。分析 2 では、虚血性心疾患（OR, 6.03; 95% CI, 1.62–22.5; p=0.007)、安定剤等の内服（OR, 4.14; 95% CI, 1.07–16.0; p=0.039）が有意な継続関連要因であった。

考察：外来通院型心リハの参加関連要因として、社会的要因（高齢、病院までの距離）が参加阻害因子として挙げられた。継続関連要因としては、身体的要因（虚血性心疾患、安定剤等の内服）が継続促進因子として挙げられた。外来通院型心リハの参加、継続を向上させるためには疾患の詳細だけでなく、患者のセルフマネジメント力や病院へのアクセス、心理的状態を把握し、参加しやすい包括的なシステムを構築することが必要である。

※日本語で記載すること。１２００字以内にまとめること。

学位論文審査結果報告書

平成２７年３月９日

大学院医学研究科長様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告致します。

【審査結果要旨】

申請者：疫学・地域保健分野　遠藤 教子

学位論文名：Factors associated with enrollment and adherence of outpatient cardiac rehabilitation in Japan.（日本における外来型心臓リハビリテーションの参加関連要因と継続関連要因についての検討）

心臓リハビリテーションは、運動耐容能、生活の質（Quality of Life）、生命予後の改善といった効果が示されている。しかし我が国では、心疾患患者での実施率は諸外国に比較して低い。実施施設においても、参加率並びに継続率は低いことが報告されている。そのため、本研究では外来通院型心臓リハビリテーションにおける参加関連要因と、継続関連要因を検討した。外来通院型心臓リハビリテーションの参加関連要因として、社会的要因（高齢、病院までの距離）が参加阻害因子として挙げられた。継続関連要因としては、身体的要因（虚血性心疾患、安定剤等の内服）が継続促進因子として挙げられた。この研究は、外来通院型心臓リハビリテーションに参加しやすい包括的なシステムを構築するのに役立ち、そして予後の改善につながる可能性がある。

申請者は審査委員からの指導・助言に対して、適切に回答した。臨床的に意義のある研究であり、本論文を学位論文に値すると判断する。

論文審査委員　　主査　竹石恭知

副査　葛西龍樹

副査　佐戸川弘之